

ガルフストリーム
発行50周年記念特集
第三弾 座談会

『熱意のバトン』でつながれたガルフ、商工会の歴史書でありコミュニティ誌でもある存在として50年後も

今年50周年を迎えるヒューストン日本商工会の会報

誌「ガルフストリーム発行50周年記念特集」というこ

とで、初代の事務局長や過去に編集委員として参加して

いた方からのインタビュー記事を3月号と6月号に既に

掲載してきました。今回の第三弾は座談会です。

いろいろなバックグラウンドを持つ現ボランティア編

集委員が集まり、これまでそれぞれ関わってきた編集

活動を振り返りつつ、今後のガルフストリーム（以下略

称は「ガルフ」）のあるべき方向性や期待することにつ

いて話し合いました。

出席者

●伊藤義治 編集委員長・商工会理事

委員の広報委員長を務めており、今

回の座談会の司会者。2025年3

月にヒューストンに赴任。ガルフス

トリームは、前任者からほとんど引

継ぎしていない中で編集委員長と

なったが、「皆さんのご協力を得

て、だいたい全体像が見えてきた」と

のこと。

●竹原優 副編集委員長・理事委員の

一人として、安全危機管理担当の特

命理事と広報副委員長を兼務。20

22年4月に赴任。記事担当、記事

執筆、校正などで貢献。

●米元錦城 編集委員…一番古くから

いる編集委員。1990年代後半

2000年代初期頃のデスクトップ

パブリッシャー、カラー印刷等のテ

クノロジー関連で大きく貢献。

ヒューストンのレストランから観

光・イベント情報まであらゆる記事

を執筆。（「記事に困ったときの米

元さん」で知られる。）

●佐藤暁子 編集委員・総領事館、補

習校、そのほか様々な団体に関わり

ネットワークを持つっている編集委

員。ガルフストリームについては記

事執筆、記事編集担当、校正、編集

会議の進行役、その他さまざまな面

で貢献。ガルフを誰よりも愛してい

るパッションに溢れた編集委員。

●穂原美優 編集委員・永住者の編集

委員。パネリストの中では、一番最

近ガルフストリームの編集委員に

なった。遠くThe Woodlandsに住みな

がら、編集会議や懇親会には積極的

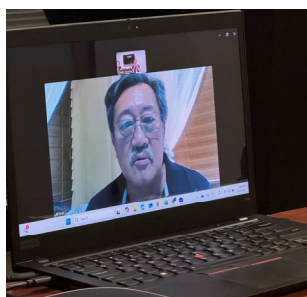
に出席している若手のホープ。現

在、校正、執筆、レイアウトを担

当。

▼オンラインで参加した

米元氏



【ガルフストリームの概要】



ガルフストリームは、1975年に商工会の前身であるヒューストン貿易懇話会の記録を残すという目的で始まる。立ち上げ当初からポランティアを中心とした方たちが作ってきた情報誌。

ガルフストリームという名前に改名されたのが1988年の2月。当時の状況も合わせて、「メキシコ湾から北上し大西洋へと流れる暖流」という意味のこの名前が採用された。

ヒューストン日本商工会は、1967年の創設以来500人前後の会員数でずっと推移してきたが、2010年代に入り、アメリカでシェール革命が起こったのをきっかけに、日本人がヒューストンに改めて集まり始めた。そこから会員数も増えていき、2025年の4月に千人を超えた。ガルフストリームは、その商工会の会報誌として商工会の歴史を残すことと、ヒューストンの歴史を残すというところが大きなミッションになっている。

以前は、議事録と会員消息を全て盛り込んでいたが、現在は会員専用ページを設け、議事録や会員消息等はパスワードで保護し、それ以外の情報は一般に公開している。

【第一部】

商工会とガルフ、ガルフと私、これまでに振り返って

伊藤…それではまず、第一部として、過去のガルフストリームの状況について伺います。

まずは、ガルフの編集部に加入された時の当時の状況や、ガルフが抱えていた課題や取り組みについてお話しください。

米元…私は、1993年から94年の商工会の準会員として加入して間もないぐらいの頃から、ガルフストリーム編集委員として、記事を書いたり集めたりしていた。当時は黒と青の二色刷り。記事は、編集員の方々が今とそんなに変わらない方法で持ち寄っていた。インターネットなんてなかった時代なので、手書き原稿やコンピューターで印刷された原稿を、どういうわけか、シカゴにある印刷屋さんにファックスで送って、印刷・製本。それを商工会に郵送するというオペレーションだった。そんな形で何年間かやりました。

しばらくして、今まで二色刷りだったのを「フルカラーでなんとかしたいね」「ガルフストリームの編集委員たちでコンピューター使って、自分たちでレイアウトを作って、それをどこか地元の印刷屋さんに出すなりしませんか？」という話になり、当時から、いわゆるITコン

サルティングの仕事をしていた私のところに回ってきた。

だから最初フルカラー印刷になったときは、実は私が印刷をしていたんです。

タブロイドの紙面で印刷すると、一枚の紙に両面見開き4ページ分印刷して、それを三枚重ねるとトータルで12ページになる。で、その三枚の紙を半分に折ると、ちょうど1・2・3・4と、ちゃんとした順番になるという形で印刷をする。だから一冊に仕上げるためには、三枚の紙を重ねてそれを半分に折る作業が必要なんです。1997年あたりで始めた当時、私には小学生の娘がいて、自分の子供と、その子たちの同級生たちを我が家によんできて、「お小遣いあげるから、あの紙を半分に折る仕事やりなさい」と。今で言うところとチャイルドレイバーっていうことになるかもしれないけど（笑）、私は子供に仕事をさせるのは、実は非常にいいことだと思っています。当時何百部か、下手すると千部近くあったかもしれない結構な量を、何時間も子供たちを横で監督しながら印刷していた。

でも何年か経って、自分の仕事でどんどん忙しくなってきた。紙面は編集委員がソフトウェアで作って、できたものを印刷屋さんに渡して印刷するという形になった。自分で印刷をやったのは6・7年くらい。印刷の変遷は、そんな形です。

佐藤…私は2009年にヒューストンに来て総領事館に勤め出し、2011年ぐ

らいからガルフストリームの編集担当に。私は日本にいた時に4年ぐらい編集・出版の仕事をしていた、これは私が本当にやりたい仕事だったので嬉しかった。「お弁当が出るよ」と言われたのも大きかったです。（笑）

私は当時、入ったばかりだし、編集会議がどういう状況かわからなかったの、隅っこの方です。で、（笑）編集委員で古い方はリラックスしていた感じがしたが、新しい方はみんな借りてきた猫のようで、ちょっと昭和の体育会系の部活みたいな雰囲気。

そのころも「次号の記事どうしよう？」「じゃあ、これは誰が書いて」「みたいに決まっていきましたが、割と堅い記事が多く、今のような柔らかなめの記事があまりなかった気がする。私も、だんだん馴染んでくると、「それは主婦の視線だね」と言われながら、食材とか献立の話とか、商工会のおじさんたちはあまり興味を持たないような記事を提案しました。そして自分で記事も書くようになり、硬軟取り混ぜた内容になってきた。そのうち事務局長が小林さん（前事務局長）に変わって、2人で話をしていろいろ企画を立てるようになって、ずっと楽しくやっています。

▼佐藤氏



【第一部：商工会とゴルフ、ゴルフと私、これまでを振り返って】

(続き)

竹原…丸紅の竹原です。ヒュー

ストーンには2022年の4月に着任。ゴルフとの関わりは、前任者から引き継いだ安全・危機管理特命理事として、当初は、ハリケーンシーズンの備えや寒波の備えなどに関する記事を用意するという形で、昨年の4月から広報副委員長として編集の方にも入って今に至ります。

編集委員として参加し始めてから一番驚いたのが、多くのボランティアの方に支えられてゴルフストリームができていたということ。現場を初めて知り、「これは私ももっと頑張らないといけない」という気持ちになりました。副編集委員長として二年目ですが、引き続きゴルフストリームを継続して発行していけるように頑張っていきたいと思っています。

藤原…私は2022年12月にヒューストーンに。それから半年ぐらい経った頃、何か新しいことをしてみたいなとぼんやり考えていた時に、友人から「ゴルフのボランティア、募集してるみたいだよ」という話を聞いて、「ちょっとやってみようかな」と。

最初は校正担当として、記事の内容のチェックをしていたのですが、少しずつ記事を書かせていただくことに。佐藤さんの言う柔らかい記事です。この4月か



▲竹原副編集委員長 (Marubeni)

らは少しずつレイアウトの手伝いもしています。新しいことばかりで、なかなかうまくいかないこともあります。よろしくお願いします。

伊藤…もともと商工会の活動を記録する媒体としての要素が強かったゴルフが、徐々にコミュニティ誌のようになってきました。今現在、広報誌としてのミッションを果たしているのか、という点についてお聞きます。

竹原…会報誌にまず求められる一番大事な役割は、商工会としてどういう活動をしているのかをタイムリーに会員の皆様にシェアすること。各役員、各理事がどういうことをされていて、どういうことを考えているのかを皆様にいかに伝えていくか。最初にゴルフが生まれたのも、おそらくそういう議事録的なところが大きかったと思う。今はゴルフストリームの中からリンクの形で、会員は議事録が閲覧できるようになっている。

その理事委員会でいろいろ議論されて実行に移される大会やイベントについて事前に周知して参加者を募り、実施された後には、「こういう形でした」と皆さんにシェアしている。それから毎年、新年度の役員と理事委員についても、今ど

ういう方々が商工会の中心になっているかということをお伝えしている。その点で会報誌としての役目はしっかり果たせていると思う。

それプラス、商工会員の生活がより豊かになるようなタウン誌的な役割も一部ある。会報誌として商工会の活動内容を伝えることと、会員の生活をより豊かにしていくという二本柱で成り立っている、非常にバランスの良い情報誌になっていると思う。

藤原…私は非会員ですが、非会員から見ても非常に役立つ、助かる情報誌。渡米してくる人は、全員が全員、英語が堪能なわけではない。ヒューストンの情報が日本語でまとまっているものがあるのは非常に心強い。シーズンのイベントとか、補習校の情報とか、病院の話とか。最近で言う美容師さんの情報とか。そういうことを英語で探そうとすると、難しくて壁になってしまいう方も多いと思うので、ありがたい存在。

伊藤…過去に駐在員が結構ゴルフ編集に参加していたそうですが、駐在員の編集委員がいらない現在と、過去に会員企業からも編集委員が出ていた時と、ゴルフストリームの色は違うのでしょうか？

米元…駐在員が編集委員になっ

ていても、記事の全体的な傾向とか、私はそんなに変わっていないのではないかとこの頃がしますけど。どうでしょう。



▲伊藤編集委員長 (JOGMEC)

て駐在員の編集委員を派遣してくださる場合もあり、最初は半強制的(笑)に選ばれるわけですが、そういうのが好きな方が選ばれるらしく、ここに来ると楽しんでやっていらした。「うちの会社では今こんなことしてる」「うちの会社は終業後、クラブ活動みたいなものやってるよ」とか、各会社の情報が出ていた。そういう意味では、駐在の方がもう少し入った方が、会社としての情報が集まってくるのでは？そうすると、各会社の色みたいなのも少しずつ入ってきて良いのではないかと。

伊藤…他のツール(商工会のイベント)もあるから、ゴルフの中には会社同士のコミュニティを促進するという役割を前面に出す必要性が低いのもかもしれません。駐在員がもう少し入ってくると、各社・会員の皆さんにも伝わって、互いのコミュニケーション促進とか束ねる力として、ゴルフの色が若干変わってくる可能性はあるかもしれない。

佐藤…編集委員として参加された方なら、自由に発想できるのではないかと。だから、できれば各会社からももう少し参加していただけないかと思う。

【第二部：これからの

ゴルフに期待すること】

伊藤…今、インターネットで自分が知りたき情報を簡単に手に入れられる時代に変わってきている。そういう時代だからこそ、ゴルフができることというのは何なのか？ゴルフに期待していることをお話しください。

米元…今、インターネットでありとあらゆる情報が手に入る。ソーシャルメディアでは、いろいろなアルゴリズムによって、自分たちの興味のあるものについてはどんどん芋づる式に出てくる仕組みになっている。忙しい人は、自分の本当に好きなものなら、探しに行ったり、入ってくる情報源はあちこちあるのかもしれないが、そうでもないものは案外知らずに通り過ぎていくことがあるのでは？だから、こういう刊行物に目を通すと、自分の身の回りに全然ない事象を知ることができるというメリットがある。

佐藤…私はバリバリの昭和の人間なので、紙媒体廃止案には寂しくて最後まで抵抗した。できれば紙とバーチャルの二本立ての状態ですつと行ってほしかった。時代の移り変わりもあるし、今は仕方がないかな。

議事録は私も最初は面白くないと思っていただけど、今では結構熟読していて、「こんなことが起こったんだ」と思うような情報も入ってくる。自分とはつながりのなかった会社についても、ちょっと

した豆知識が得られる。その会社がもしニュースに出たりすると、「あの会社知ってる。どうなっちゃうんだろう」と、そういう新たな興味がわいてくる。ヒューストンにきている日本の企業にどんな関心が向いて、各会社に対する親しみとか近しい気持ちになる。そういう、すごくいいところがゴルフにはある。

藤原…SNSの活用はもつとしていいものではないかと思う。私の世代の人たちって、インスタグラムをすごく活用している。ゴルフも、ゴルフの記事そのものを見ていただくことを考えるより先に、ゴルフを知るきっかけ、入り口になるような形でSNSを活用できたら、若い世代の認知度が上がり「読んでみようかな」と思ってもらえるかもしれない。SNSの活用の仕方はよく考えないといけないと思うが、知らない人が投稿している内容より、商工会というしっかりした団体が投稿している情報の方が信頼できる。若者向けには、そういうSNSでの入り口を作ってあげるのはいいと思う。

伊藤…確かに普通の企業もインスタとかツイッターとかで情報発信を結構しています。ちょうど中間世代の竹原さん、いかがですか？

竹原…私、全然中間じゃなくて、もうかなり上ですけど（笑）、SNSとかネットではどうしても自分の興味がある所を探索しに行きます。でもゴルフは、ただ

サツとどういふ記事があるのか新聞の見出しを見るような感じで見れば、自分の興味がある所以外でも「こんなあるんだな」という気付きや発見があると思う。全部を熟読する必要は全然ない。そういう意味でも、情報の押し売りではないが、「これはシェアしたほうがいいな」という情報が載っていると思う。

伊藤…会報誌は現在の形で残していく。そして、これに触れてもらう機会を増やすためにSNSをどうやって使っていくか。

話は変わりますが、ハリケーンハービーやコロナがあったときも、過去50年間一度も休刊したことがないとか。こういったボランティアの編集委員たちだけの雑誌で、過去いろんなことが起こりつつも発行を続けられたのはなぜか？

米元…たぶん、ボランティアとは言いがた、ヒューストン日本商工会という立派な団体のオフィシャルな発行物として、編集長以下、事務局の方々が「これは何が何でも発行しないとけない」と思っ

てやってもらえるからではないか。

佐藤…コロナの時は、小林さんの「俺について来ーい」の熱意で、皆が皆、もつとやらないといけないような雰囲気になった。（笑）あの頃はみんなが家にいて、他にやることがなかったし、楽しい編集会議でお互い気心も知れていて、「何もできない今だから、何かできることをしよう」という気持ちがすごく高まり、絆が余計に深まった。それで皆が今

までよりももっと知恵を絞った。編集会議にきて皆で話をしてると、会社以外の人とつながって、会社の中だけでは得られないような知識とか、他のいろいろな人の生活感に触れて、コミュニケーション的な気持ちだんだん強まって、ゴルフを愛するようになってくるんだと思う。

竹原…皆さんが本当に熱意を持ってやってらっしゃるのが肌で感じられて、その熱意を目のあたりにすると、自分も頑張らなきゃいけないという思いに自然となっていた。この50年間、歴代の編集委員の熱意が、どういう大変なことがあってもタスクリレーのように続いてきている。そこに入ると、感化され、自分もなにかしないと、という思いに自然となる。

伊藤…では最後の質問ということで、皆さんが今後のゴルフストリームに期待することを簡単に教えてください。例えば、十年後、直近でもいいですが、ゴルフがどうなっているのか、とか、今後どうやって活動を継続していきたいかというところをお願いします。

米元…私は今、ITとお酒輸入の二つの仕事をやっていてゴルフには手が回っていない。でも、少し楽になって従業員が雇えたらまた戻ってくるかも。職業柄、レストランには本当によく行くので、昔から続いている『食うすん』みたいなシリーズだったら、そのうち復活できるかな。そういう形ならそのうち貢献できると思う。

【第二部：これからの ゴルフに期待すること】

(続き)

佐藤…私は編集の仕事が好きなので、十年後もし会社を辞めていてもボランティアとして続けていたい。ゴルフは毎月定番の記事プラス今の世相を反映してるところもあるので、このまま続いていくと、歴史書のように、「この年にこんな事があった」と振り返るときにとっても役立つと思う。それが今からすごく楽しみ。それと、時々自分の記事が載った号を懐かしく読み返しては、「こんな時はこんなことを考えていたんだ」とか、「こんな体験してたんだ」と、自分自身の日記にもなる。

竹原…十年後も続けていくというのがやはり一番大事なことだと思う。商工会という組織形態は、十年後どころか、これからまた50年、100年後も間違いなく続いていくはずですので、未来のためにも商工会の活動をしっかりと伝えるのが会報誌としての役割。活動の記録を柱にしながら、その時代、その時代にあったコミュニティ的な要素を入れていくということが大事だと思う。私もその次の世代にちゃんと『熱意のバトン』(笑)を渡せるようにしていきたい。

蘓原…ゴルフは、歴史書というか記録としてすごく大事なものだと思うので、十年後と言わず、次の50年(笑)、続け

てほしいと思う。自分が十年後何をしているかわかりませんが、その時に少しでも関わりがあったらいいなと思う。

佐藤…伊藤委員長はどうですか？

伊藤…ベースはこのPDFの誌面としても、今の形にこだわる必要はなく、その時代に合わせていろいろなツールをうまく活用しながら継続していったほしい。実際、皆さんがボランティアで参加していて、それぞれの熱意でもって支えられている雑誌です。世相を反映していろいろな状況を伝えられる誌面でもあるので、それを狭いコミュニティだけではなく、もう少しいろいろな人たちに触れていただける機会を、いろいろなツールを使って増やしていければ、と思う。皆さんがゴルフに触れる機会をこれからいかに増やしていけるか。今後いろいろなところで変えていきたい。私もあらためてゴルフの重要な位置づけを感じました。本日はありがとうございました。

◀ 蘓原氏



▼オンライン参加の米元氏のコメントに耳を傾ける参加者：左から小林元事務局長、佐藤氏、伊藤委員長、竹原副委員長、蘓原氏



One Big Beautiful Bill Act (OBBB) のエネルギー分野への影響



7月4日、第2次トランプ政権の優先政策を盛り込んだ予算調整法案 (Reconciliation Bill) である One Big Beautiful Bill Act (OBBA) が成立しました。同法案はトランプ減税の恒久化、国内産業回帰、社会保障改革等に関連した法案となっています。エネルギー分野においては、前バイデン政権時代に成立したインフレ削減法 (Inflation Reduction Act 以下「IRA」) によるクリーンエネルギー開発支援のための税額控除の見直しや石油・天然ガス・石炭といった化石燃料産業の再活性化を図る規制緩和などが含まれています。今回はエネルギー産業のメッカでもあるテキサス州にも影響する OBBA 法案によるクリーンエネルギー支援の見直しについてまとめてみたいと思います。

1. クリーンエネルギー分野のIRAの税額控除の主な変更点

バイデン政権では、クリーンエネルギーに関する補助金や税額控除などを充実させることで、エネルギー供給構造の転換と脱炭素化を促進させる政策を推進してきました。一方のトランプ政権では、クリーンエネルギーに対する補助金や税額控除は縮小しながらも、規制を緩和することで石油・天然ガスを含めたエネルギー開発を促進させ、安価なエネルギーを安定的に供給することを重視した政策となっています。今回成立したOBBA法案によって、クリーンエネルギー関連の主なIRA税額控除は以下のような見直しが行われています。全ての分野が縮小・廃止されたわけではなく、バイオ燃料のように支援期間が延長されたものや、CCS (Carbon Capture and Storage、二酸化炭素の地下貯留) のように現状維持されている分野もあり、全ての脱炭素関連事業に逆風となっているわけではなく、米国が世界的にも先行して事業化する可能性のあるCCSのような事業分野については、支援が維持されているのも特徴としてみることができます。

【廃止・縮小】

分野	適用期限 (カッコ内は見直し前)	その他の追加措置
グリーン水素 : 45V	2027年末 (←2032年末)	
電気自動車 (EV) : 25E, 30D, 45W	2025年9月末 (←2032年末)	
グリーン電力 (太陽光・風力) : 45Y, 48E	2027年末 (←2032年を基準年として 2035年末までにフェードアウト)	・禁止外国組織に関する制約が追加

【拡張】

分野	適用期限（カッコ内は見直し前）	その他の追加措置
クリーン燃料（バイオ燃料等） ：45Z	2029年末（←2027年末）	・禁止外国組織に関する制約が追加 ・米国・メキシコ・カナダで生産された原料に 限定

【現状維持】

分野	適用期限（カッコ内は見直し前）	その他の追加措置
炭素隔離（CCS） ：45Q	2032年末（←2032年末）	・禁止外国組織に関する制約が追加 ・EOR（増進回収）目的のCCSについて の控除額が、二酸化炭素1トンあたり60\$ から85\$に高上げ（他のCCSと同水準ま で高上げ）
クリーン電力（原子力・地熱） ：45Y,48E	2035年末（←2032年を基準年として 2035年末までにフェードアウト）	・禁止外国組織に関する制約が追加

2. OBBB法案によるクリーン エネルギー支援の見直しの影響

ここからは、これまで見てきたIRA税額控除の変更が、テキサス州の事業環境にどのような影響を及ぼす可能性があるのかについて考えていきたいと思います。

クリーン水素事業への影響

テキサス州では、AES Corporation、Air Liquide、Chevron、ExxonMobil、MHI Hydrogen Infrastructure、Orstedといった主要6社が合計7プロジェクトで年間700万トンのCO2削減効果をもたらすクリーン水素を製造・供給するHyVelocity Hubといった水素ハブ計画が検討されており、米国エネルギー省（DOE）の部局であるクリーンエネルギー実証局（OCE D）から最大12億ドルの援助を受ける予定となっていました。この計画により、テキサス州は全米の中でもトップクラスの水素製造拠点となることが見込まれていました。しかし、トランプ政権発足後は、水素ハブ計画への政府支援は進んでおらず（2024年末時点で2200万ドルの支援は支給されているよう（1）ですが、それ以降の支援については公表されていません）、

テキサス州内の水素事業についても不透明性が増しています。このため、テキサス州内の水素インフラ（パイプラインや貯蔵設備）については、水素ハブ支援に関する政策方針が明確になるまでは遅延する可能性が高くなっていると考えることができます。さらに、上述のとおり2025年7月に可決されたOBBBによって、水素製造事業の税額控除支援であるIRA 45Vの適格要件については当初2032年末までに建設開始のプロジェクトが対象という条件が2027年末まで短縮され、グリーン水素には逆風の状況となっています。一方でCCUS事業の税額控除支援である45Qについては（EORの控除額が60ドルから85ドルに上昇などの変更はありませんが）大きな変更はなかったため、ブルー水素製造プロジェクトについては計画に与える影響は少ないと言われています。このため、当面テキサス州の水素を牽引するのは、産業用途やモビリティ用途といった国内需要ではなく、ヨーロッパや日韓などに向けた輸出用のブルー水素需要となる可能性が高くなると考えられます。供給については、ExxonMobilなどのブルーアンモニア製造事業が牽引することが見込まれており、需要については、ヨーロッパ向け以外では水素・クリーンアンモニア輸入に対する政策支援を有する日本・韓国向けへの輸出への期待が大きくなっています。

電力への影響

テキサス州の年間発電量は2023年時点で約547TWhで、全米の発電量の13%相当の規模で全米トップとなっています(2)。発電量とともに電力需要量も多いテキサス州は今後も増加が見込まれており、データセンター(Aーや暗号通貨のマイニングなど)による需要、水素製造事業などの新産業による需要や石油・天然ガスなどの既存産業の電化などによって、2031年には現在の87GW(夏期ピーク需要時の系統電力への負荷)から約1.7倍の145GWまで増加する可能性が示唆されています(3)。こうした電力需要に対応するためには、太陽光・風力などの再生エネ、蓄電池、火力発電、原子力など様々な電源からの供給が必要になります。しかし、原子力については新規で建設するためには5年以上の時間が必要で、新たなガス火力発電設備についてもガスタービン製造会社が供給網に制約を抱えており、5年以内に運転を開始することは難しい可能性もあると言われています。このため、今後5年間で急増する電力需要に対しては、再生エネ・蓄電池による新規電源供給と(天候などに左右される)再生エネによる出力の不安定さに対処し、電力系統の安定化を図るための既存火力発電の維持と蓄電池容量の増加が重要となっています。ERCOTが公表している計画では、再

エネに依存する傾向は今後も強まると見込まれており、現在70GWの発電容量を持つ風力と太陽光は2028年ごろまでに120GWまで拡大する計画となっています。また、再生エネによる出力の不安定さに対処し電力系統の安定化を図るために蓄電池容量も現在の10GWから2028年ごろまでに最大で40GWまで増大する計画となっています。こうした電力環境に関しても、OBBB法案の影響は懸念されます。風力や太陽光発電も対象となるIRA45Y(クリーン電力生産税額控除、PTC)と48E(クリーン電力投資税額控除、ITC)の適格要件は、OBBB法案によって、風力・太陽光プロジェクトに関しては2032年末までの運転開始という条件が、2026年7月4日以前に建設が開始され、2027年末までに運転開始という条件に変更になっており、大幅に適用期限が短縮されています。大手再生エネ開発事業者などによるプロジェクトはスケジュールを前倒しにすることで駆け込み開発を進めることも予想され、再生エネ電力の成長ペースについては一時的(短期的)には影響は出ないかもしれませんが、中長期的には再生エネ新規投資が鈍化しガス火力への依存度が上昇する可能性もあると考えられます。

3. まとめ

ランプ政権になり、バイデン政権で推進されてきた補助金や税制優遇によるクリーンエネルギーへの政府支援は弱まり、環境を重視した支援政策から規制緩和等による産業支援の色合いが強くなっています。税制優遇が縮小される再生エネ(風力・太陽光)やグリーン水素事業などについては、駆け込み的な開発によって一時的に開発ラッシュが起こる可能性など短期的にも影響は出る可能性も考えられますが、今回の法案によって、中長期的に米国のエネルギー分野への投資環境が、欧州をはじめとする脱炭素化政策を継続する国との比較において、どのような位置づけに変化していくのかを考えていくことも重要になってくると思います。

(JOGMEC 伊藤義治)



(1)[Gulf Coast Hydrogen Hub Officially Launches | HyVelocity](#)

(2)[US Electricity Profile 2023 - U.S. Energy Information Administration](#)

(3)<https://www.ercot.com/gridinfo/load/>



ランディ・バス氏叙勲



2023年には米国人として初めて、外国人として63年ぶりに日本野球殿堂入りを果たしました。

バス氏は、1986年にオクラホマ駐日親善大使に任命され、日本とオクラホマ州との友好親善・相互理解の増進に貢献しました。また、2005年から2019年までオクラホマ州議会の上院議員を務め、京都府との姉妹県交流の深化に貢献するとともに、日本とオクラホマ州の要人が往來する際には同行や意見交換を行うなど、日本に縁の深い議員としても活躍しました。

今般の勲章は、このようなバス氏の功績を讃えるものとして授与されました。

7月18日、バス氏への勲章伝達式が総領事公邸において開催され、バス氏ご夫妻とご息女を含め52人が出席しました。

長沼総領事は、バス氏の阪神タイガース時代の活躍を紹介するとともに、日米友好親善への貢献、特に、東日本大震災直後にオクラホマの人々に支援を求め、被災地を訪問し



て地元の少年野球チームを激励したエピソードを交え、バス氏は多くの日本人から永く敬愛されていると述べ、勲記・勲章を授与し、夫人に花束を贈呈しました。

バス氏は、叙勲について、オクラホマで生まれ育った自分にいつかこのような日が訪れるとは想像もできなかった、この上ない栄誉であるとして深甚なる謝意を述べ、日本で暮らし、多くの友人に恵まれ、素晴らしい文化を学んだ、日本は自分にとって特別な国であり、このような経験ができたことはとても幸運なことだった、何度も訪日しているのは日米友好親善のためであり、その発展が自分の希望であると述べました。

その後、ターナー・オクラホマ州

商務省地域連携・事業活性化局長がステイット知事の祝辞を披露、記念品を贈呈し、バートレット在タルサ名誉領事、ハーディン前在オクラホマシティ名誉領事がそれぞれ祝辞、乾杯挨拶を行いました。

伝達式が終わると、バス氏は来場者からのサイン、写真撮影に快く応じ、バス氏の前にはゲストの長い列ができました。最後にゲスト有志の藤井将之さんが演奏するトランペットに合わせてバス氏の応援歌を来場者全員が合唱し、非常な熱気の中でレセプションを終えました。

(在ヒューストン日本国総領事館)



令和7年春の叙勲において、日本では「バス」の名で広く知られている元阪神タイガース選手のランディ・バス氏 (Mr. Randy Williams Bas) が「旭日小綬章」を受章しました。

バス氏は、1983年に阪神タイガースに入団してから1988年に御子息の病氣治療に専念するため離日するまでの間、首位打者・本塁打王・打点王の「三冠王」を二年連続で獲得するなど輝かしい実績を残しました。1986年のシーズン打率389は、イチロー選手でも超えることができなかった日本プロ野球史上の最高記録となっています。



2018年に開始されたフォートベンド学区クレメンツ高校と千葉市公立高校との交流プログラムは、商工会様にご支援いただき、今年で7年目を迎えました。第一回目、2回目の交流プログラムは、ガルフストリーム2018年と2019年9月号に寄稿させていただきました。途中コロナの為、何年か交流が叶いませんでしたが、今回4度目の訪日として、6月後半二週間に亘って行われました。前半一週間強の訪問先は京都／奈良／大阪、東京エリアで、観光と日本の歴史の学習、残り一週間弱は、千葉市で

となりました。今年は、日本の学校の文化祭を体験することができ、学校文化や生きた日本語を学ぶことのできる、内容の濃い交流プログラムとなりました。以下は生徒達のフォト日記の一部を原文のまま記載致します。

6月12—14日..

ヒューストンと羽田を結ぶANAの直行便が、今年で10周年を迎えました。私はこの記念フライトに乗ることができて、特別なチャームをもらいました。次の日、東京で一番古い浅草の浅草寺に行き、まず、お線香の煙を体にあてて健康

の学校訪問とホームステイを通して日本語を集中的に学ぶことを目的としたものでした。この数年間のコロナと円高の影響で、日本の生徒さんを迎えられず、また今回の訪日プログラムを希望する生徒集めにも難航し、最終的に9名の生徒とその親御さんとで日本を訪問すること



又ードルを作ったりしました。京都では、ロマンチック列車に乗ったり、竹林を散策したり、嵐山のとつぺんまで登って猿を見ることができて楽しかったです。

を祈る体験をしました。日本の神社仏閣についての伝統的な文化や、おみくじの仕組みや意味について学ぶ良い機会になり、とても楽しかったです。

6月15—17日..

大阪では、大阪城を訪れて日本の歴史についてたくさん学んだり、カップヌードル博物館に行ってオリジナルのカップ



6月18—19日..

18日は東京で一日中自由時間がありました。グループに分かれて、猫カフェに行ったり、買い物をしたりしました。渋谷でジャンプショップを見つけるときは、とてもわくわくしました。店内で、子どもたちと日本語で話す機会もあり、とても楽しい時間でした。19日は、チームラボを訪れ、水や庭園の展示など、様々な展示を見学したり、体験したりして、感動しました。その後、千葉の姉妹校へ行き、ホストファミリーと出会いました。とても親切で思いやりのある方々でした。

す。奈良では、東大寺と春日大社に行きました。近くにはたくさんの鹿がいて、鹿せんべいをあげることができました。人なつっこかったです。中にはおじぎをしてくれる鹿もいて、とてもかわいかったです。食べ物を持っていると、鹿が追いかけてくることもありましたが、それも楽しかったです。



6月20—21日..

20日は文化祭の初日でした。ホストシスターのクラスと合流して、一緒に文化祭をまわりました。クラスごとに違う企画があって、お化け屋敷やカフェ、カジノがあり、劇やミュージカルをするクラスもありました。みんなの努力に感動しました。21日は、文化祭の2日目で、生徒の友達や家族も参加できたので、もっと混んでいて、列もすごく長かったけど、それでもとても楽しかったです。文化祭が終わった後、クラス全員でバーベキューを計画して、私たちも誘ってくれました。楽しかったし、食べ物おいしかったです。



6月22—23日..

生徒1「この日はホストファミリーと一日中一緒に過ごしました。近くの神社を訪れたり、ホスト生徒のおばさんの家に行ったり、おいしい食べ物をたくさん食べたりしました。ホストファミリーはとても温かく迎えてくれて、とても仲良くなれたと思います。」生徒2「ホストマザーと一緒にコインランドリーに行きました。洗濯と乾燥が同じ機械でできるのに驚きました。その後、近くの大きなイ

オンモールに買い物に行きました。夕食にはたこ焼きを作りました。私はタコが苦手なので、代わりに牛肉のたこ焼きを食べました。」生徒3「みんなで芋掘りをしてから親戚の家に行き、料理と一緒に作りました。その後、正式に茶道を体験し、茶道の師範であるおじいさんにもお手前を見せていただきました。」

6月24—25日..

24日..今日は姉妹校で普通の日を体験しました。学校でいろいろな活動に参加しました。日本の伝統的な遊びや料理を体験して、さらにたくさん友達ができました。また、生徒たちと一緒に卓球もしました。とても緊張しました。放課後には、お別れ会で歌やダンスを発表をしました。

25日..ホストファミリーに最後の別れを告げて、空港へ向かいました。ヒューストンへの帰りのフライトは安全で、特にトラブルもなく快適でした。機内で出された食事美味しく楽しめました。

今回の旅行について生徒の感想例..

「今回の経験はとても貴重で、視野が広がりました。たくさんのことを学び、いろいろな人と交流できてとても楽しかったです。」「前の晩ホストファミリーへの感謝の気持ちを込めて、長い手紙を書きました。

ホストファミリーは、これからもずっと私の一部であり、家族だと思っています。」個人的な感想になりますが、それぞれの国の情勢や人事が変化中、有意義なホームステイをご手配くださった校長、教頭と担当スタッフの皆様には大変感謝しております。また、報告の最後にあたり、ヒューストン日本商工会様には、私たちの活動に多大なご理解と協力いただきました。厚意に、深く感謝し、御礼申し上げます。

(文責 シェリダン義美)

冒険する 歯科医

“Dr. Ned”の
気ままな
フォトアルバム

41

TEXAS KANKOU

<http://www.texasankou.com/>

<https://www.youtube.com/@Houstoncosmeticdentist>

Shiprock ロードトリップ in ニューメキシコ

セドナやフォーコーナースあたりを運転していて気にかかるアメリカのへそ？

アメリカ旅行の醍醐味といえば、広大な大地を車で走る、ロードトリップではないかと思えます。中でも赤い岩山の間を縫って走る、グランドキャニオン、モニュメントバレー、セドナあたりは、まるで映画の世界で、アメリカに暮らしているなら一度はやってみたいものです。実際ここヒューストンからでも、巨大なテキサスを抜けるのに時間はかかるものの、1週間あれば夢はかないます。また、飛行機で飛び、そこからレンタカーで回った方はたくさんいるはずです。その時、4つの州境がぶつかる、フォー・コーナースあたりで、遠くにそびえる、おさびし山型の、単独峰を見た方は多いのではないのでしょうか。どこまで走ってもついてくるけど、決して近づいてはこない、特徴的な形をした、黄土色のがった山です。まさにムーミン谷のおさびし山という感じで、気になって、運転に集中できないレベルなのです。私も何年も前、車で旅をしていて初めて見つけ、いつまでも忘れられない山となりました。

あれから、何年もたち、子供も大きくなり、春休み、2人でロードトリップを計画しようというときに、その光景が思い出され、GoogleしてみるとこれはShiprockというもので、地図上でフォー・コーナースの少し右下、ニューメキシコにあることが判明。さらに私の州外で一番好きな場所かもしれない、Badlandsの近くということも判明し、さっそくその2か所を改めてみることに決定（[Badlandsの記事はGulfStream 2018年11月号参照](#)）。

Badlandsは去年ヒューストン、ジョージブッシュ空港でのニューメキシコのPRビデオで、自然系はこのみ宣伝しているという力の入れよう。私が行った2018年のころに比べ新しい駐車場の位置も変わり、わかりやすくなりました。予約なしでどこでもテントが張れ、まるで地球外惑星に降り立った感覚が味わえる、奇跡の場所です。（ヒューストンから車で16時間）

まずはBadlandsでキャンプをして、さらにBadlandsの駐車場で車中泊、翌日夜明けとともにShiprockへ。朝焼けがShiprockに真横から当たるときが、ものすごくきれいらしい。しかし調べ方が悪かったのか、7年前のBadlands状態で、GPSと実際の道があまり一致しない。山は目の前に見えるのだけど、ふもとへのアクセスがわからない。太陽はむなく登っていく。調べた小道に入る。かなり近い。道はとぎれとぎれのオフロードだ。Shiprockはかなり近く、威圧的に見える。だが、大きすぎて近く見えてるだけで、実際は遥か彼方だ。道もついには消え、さすがのトヨタ・タコマでも断念せざるを得ない。でも、なんとなく道が向こうの方に見える。急いで引き返す。記憶を頼りに、今度は自動車道を突き進む。





これだ！ものすごく近くなっている。しかもShiprockから伸びるゴジラの背びれみたいな屏風状の真っ黒い岩の壁が目の前だ。道路はその背びれを貫いて、はるか向こうに続いている。道を右に外れると、こ



の屏風のような巨大な壁の横に車を置ける。誰もいない。これ本当に自然が作ったものなのか？近づくとまるで、城の石垣のように見える。あとから聞いたが、ここには大地の割れ目があり、それに沿って地下から溶岩が、絞り出さ

れて、屏風のよう
に固まったた
らしい。この屏風
は地平線まで続
いているように
見える。ものす
ごい迫力だ。そ
の屏風の先には、
おさびし山、Ship
rockだ。なん
とふもとまで、
車で突っ走れ
る。普通車でも
行けるレベル
だ。そのままふ
もとまで行き、
カップ麺を食
べ、思う存分撮
影をしたり、遊
んだ。ひょうが
降ったり、晴れ
たり曇ったり、
標高2188m
の高所砂漠の天
気は変わりやす
く、忙しそう
だ。でも、その
都度ダイナミッ
クなおさびし山



が映える。Shiprockの高さは482m、オーストラリアのへそ、ウルル（エアーズロック）より150mも高い。
ぜひ一度訪れてみてください。そのスケール、そして人がいない（たぶん）、荒野の感じ。これぞアメリカの大自然だ。YouTubeのリンクはこちらです。<https://youtu.be/hEknyHm3zwk?si=Pjro-wO6R4CteA>
ぜひShiprockの雄姿を動画で見てください。詳しいアクセスポイントはYouTubeの概要欄をどうぞ。行きたくなります。その他の冒険動画は、YouTubeで“冒険する歯科医”で検索してみてください。チャンネル登録 コメントよろしくお願います！

 https://www.youtube.com/@Houston_cosmetic_dentist

今月号は伊藤善郎先生から呼吸器外科がご専門の伊藤温志先生にバトンが移りました。

第248回 肺がんの外科治療について

医師（現Baylor College of Medicine博士研究員）伊藤温志

皆さん、こんにちは。三重県松阪市（松阪牛で有名ですね）からまいりました、呼吸器外科医の伊藤温志と申します。

現在はベイラー医科大学の外科部門 Systems Oncology Laboratory に所属し、肺がんや悪性胸膜中皮腫について研究を行っています。さて、今回はここ数年で大きく進化した肺がんの外科治療についてお伝えしたいと思います。

肺がん手術の進化

以前は、肺がんが見つかった時にはすでに進行していることが多く、大きな腫瘍を切除するために20cm以上の開胸手術が必要でした。肋骨を一部切ることもあり、術後の負担は非常に大きなものでした。しかし、がん検診の普及やCTなどの画像診断技術の向上により、肺がんの早期発見が可能になり、手術の方法も大きく変わってきました。現在では、2〜3cm程度の小さな傷を数箇所つけて行う胸腔鏡手術や、手術支援ロボットを用いた低侵襲手術が主流となっています。最近では、3cm程度の傷一つだけで行う「単孔式手術」も普及してきました。肺は空気が抜けるとスポンジのようにしぼむため、小さな傷からでも体外に取り出すことが可能です。また、肺は呼吸に必要な不可欠な臓器であるため、切除範囲が大きくなると息苦しさが術後に残ることがあります。これまでの肺がんの手術は肺葉切除が標準手術と考えられてきましたが、最近の臨床研究の結果を受けて、2cm以下の末梢早期肺がんの場合には、肺をより多く温存できる縮小手術（区域切除や部分切除）が推奨されるようになってきました。つまり、近年の肺がん手術は、できるだけ

け体への負担を減らしつつ、肺機能を温存し、術後も快適に生活できることを目指す方向に進んでいます。ただし、腫瘍が大きい場合やリンパ節転移があるような進行肺がんでは、従来通りの開胸手術や広範囲の切除が必要になることもあります。それでも最近、薬剤治療と手術を組みあわせることで、進行肺がんに対しても高い治療効果が得られるようになってきました。

肺がんの周術期治療

進行肺がんに対しては、手術だけでは再発を防ぐのが難しいため、手術の前後に薬剤を併用する「周術期治療」が行われます。これまでの抗がん剤による周術期治療では、生存率の改善効果は2〜3%程度にとどまていました。しかし近年、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤といった新しい薬剤が登場し、これらを外科治療に併用することで再発を抑え、生存率を10%以上も改善できることがわかってきました。特に免疫チェックポイント阻害剤は、手術前に使用することで腫瘍が縮小し、開胸手術や大きな肺

の切除を避けられるケースも報告されています。さらに、これまで手術が難しいとされていた進行肺がんの患者さんでも、薬剤によって腫瘍が小さくなれば、外科治療の対象となる可能性が広がっています。

今後の展望

免疫チェックポイント阻害剤は非常に効果的な薬ですが、すべての肺がん患者さんに効くわけではありません。また、副作用が強く出る方もおられます。私たちの研究室では、実際の患者さんの協力のもと、がん組織や血液サンプルを用いてシングルセル解析やプロテオミクス解析を行い、「どのような患者さんに薬が効きやすいのか」、「どのような患者さんに副作用が出やすいのか」といったメカニズムの解明に取り組んでいます。こうした研究が、将来の肺がん診療に役立てられればと願っています。

外科治療に関しては、今後ますますAIによる手術支援が進むことが予想され、より安全で精緻な手術ができるようになることが期待されています。また、日本国内でも手術支援ロボットを活用した遠隔手術（手術現場に外科医はいる）についてのガイドラインがすでに整備されつつあり、地域差や医療格差のない、質の高い外科治療が誰にでも届く時代が近づいてきています。



今回は救命救急・集中治療が専門の伊藤亜紗実先生です。私の妻で、現在はライス大学で、WeihongとAIについての研究をしています。夫婦ともども、まだまだ慣れないアメリカでの生活や子育てを奮闘しながらも楽しんでいます。前回の伊藤善郎先生から三人続けて伊藤姓からの寄稿となりますがご容赦ください。

テキサスの暑く長い夏は、湿度が高くて過
ごしにいくだけではなく、蚊をはじめ、様々
な害虫も増えて不快な時期でもあります。我
が家の愛犬アクアとの散歩も、暑くなるにつ
れて朝の散歩は徐々に早くなり、夕方の散歩
は遅くなります。また、蚊を媒介して感染す
る犬フィラリア症の予防薬を1ヶ月に1回飲
ませるのを忘れないようにし、散歩中にファ
イアーアントの巣を踏ませないように気をつ
けています。

ところが、気をつけていたのに、昨年の
夏、アクアは救急病院に行く事態になっ
てしまいました。

ある日の夜、ふとアクアが寝ている姿を見
ると、頬から唇の辺りが少し腫れているよう
に見えました。本犬はすやすやと寝ているの
ですが、撫でてみると、ちょっと普段よりも
膨らんで厚みがあるような気がしました。す
でに夜遅く、またアクアも特に気にする様子
もなかったのですが、翌日も症状が続くなら動物
病院に行くことにして、そのまま寝ることに
しました。



(写真1) 朝5時半には顔が
パンパンに腫れていました。

翌日早朝、気になってアクアの様子を見て
みると、よくなっているところか、顔がパン
パンに腫れていました。本犬も痒いようで、
しきりに顔をどこかに擦り付けようとした
り、後ろ足でかいたりする仕草も見られまし
た。これは家で様子を見ている場合ではあり
ません。かかりつけの動物病院はまだ開いて
いない時間だったので、家から近くて、友人
からも話を聞いていた24時間対応の動物病
院を受診することにしました。

救急病院に到着したのは朝の6時30分。
顔の腫れに気付くまでの出来事や最近変わっ
た食べ物や口にしていないかなど、色々と質
問に答えている間に血液検査の結果が出て、
腫れを抑える注射を打ってくれました。注射
を打ったから、もう家に帰って良いと言われ
ましたが、「腫れが引いていくのを確認する
までここにいってもいいですか」と聞いてみる
と、快諾してもらえた上、嫌な顔もせず、
「何か気になることがあればいつでも知らせ
てね」と言ってもらえました。

今回のアクアの顔の腫れは、何らかのアレ
ルギー反応との診断でした。食べ物アレ
ルギーの可能性は低そうなので、ハチなどの虫



(写真2) 朝6時半に
救急病院で処置中。

に刺されたことでアレルギー反応が出たよう
でした。幸い、救急病院で受けた注射とその後
に飲ませた薬がよく効いて、すぐに腫れはひき
、翌日にはほぼ元通りになりました。

アクアが診察してもらった救急病院は、先代
の愛犬オスカーが2年前に突然黄疸の症状を見
せたときにも駆け込んだ病院でした。担当の獣
医師は別の人でしたが、対応の速さや、治療
や治療費の説明、質問をしたときの受け答え
は、愛犬の急な症状を不安に思う飼い主にとっ
て本当に安心できるものでした。

犬と暮らしている方々には、自宅近くに24
時間対応の動物病院があるかどうか調べておく
ことをお勧めします。救急に駆け込む事態は嬉
しくはありませんが、休日や夜間早朝に体調を
崩してしまった愛犬を診てもらえる先があると
安心です。

(川原志津香

家庭犬しつけインストラクター)

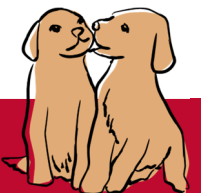


(写真3) 翌日にはすっかり元通り！



ワン! モア ヒューストン

Vol. 19 ペットのための救急病院





Truth BBQ

編集委員 蘆原

ミシュランガイドで「ヒューストン周辺」と検索すると、26のレストランが掲載されています。今回はその中から、地元で人気のBBQ店「Truth BBQ」をご紹介します。

特に週末は早朝から多くの人々が並ぶため、訪れる際は早めの行動が必須です。私もその情報を事前に知っていたため、開店時間の11時より早い10時15分にレストランに到着しましたがその時点で、すでに25人以上が列を作っていました。折りたたみ椅子や小さなスツール、読書用の本や携帯ゲーム機を持ち込んで、待ち時間を楽しみ準備をしている人たちの姿が印象的でした。BBQ店では、



基本的に予約は受け付けておらず、売り切れ次第閉店というスタイルが一般的です。日本とは違い、普段はあまり行列を見かけないアメリカでも、このお店ではそのルールがごく当たり前のものとして受け入れられているようでした。

ようやく注文カウンターに辿り着いたのは11時30分過ぎ。Togo（持ち帰り）の注文が多かったのか、イートイン用の席は空いていました。注文したのは、ブリスケット、ソーセージ。ブリスケットは食べ比べのために脂の少ない「Lean（リーン）」と、脂の旨みがしっかり感じられる「Moist（モイスト）」の2種類を選び

ました。お肉はポンド単位で注文します。そしてサイドにMac and Cheese、キャセロール、ピント豆、芽キャベツのロール、さらにデザートにバナナプディングとピーチコブラー注文しました。お肉はもちろんどれも美味しかったのですが、特にサイドメニューが絶品でした。キャセロールは男性陣に、芽キャベツのロールは女性陣に、マカロニ&チーズは子供にそれぞれ好評でした。頑張って並んだ後に味わうBBQは格別です。夏の暑さが厳しい時期には、熱中症対策をしっかりと行った上で、ぜひ訪れてみてください。



図書館便り

気持ちがちよっと落ち着かないとき
心がちよっとざわついたとき
なんとなく自信がもてなくなったとき
ちよっと一息。

ヨシタケシンスケさんの本を読んでみませんか？
子どもにも大人にも効いてくる本です♪



「わたしのわごむはわたさない」PHP研究所



「あつかったらぬげばいい」白泉社

一昨年の夏、私たち家族にとっては第二の故郷ともいえるヒューストンに11年ぶりに戻ってきました。変わらぬ広い空、うだるような蒸し暑さの中でも鮮やかに咲くサルズベリを目にして、この地に帰ってきたことを実感しました。再びヒューストンに来て嬉しかったのが、前回の駐在時にテキサス愛が高じて購入したものの、テキサスを知らない人には全くよさが伝わらないため出番の減っていた、テキサスの州の形のワッフルメーカーやお皿、ブルーボネットやカウボーイを模したジュエリーが、再び活躍の場を得たことです。

さて、ヒューストン生活の楽しみの一つはMLBやNBAなどのスポーツ観戦ではないでしょうか。私は、スポーツに特に詳しいというわけではありませんが、アメリカでのスポーツ観戦は、老若男女を問わず、誰もが楽しめる工夫がたくさんあるように思います。試合中のちょっとした合間のゲームやダンス。バズーカ砲で観客席に投げ込まれるTシャツ。私が好きなのはkiss camです。大型スクリーンに映し出された観客の二人がキスをするのですが、たまにカップルじゃないのに一緒に映ってしまった隣同士の男女が気まずい表情を見せたり、一瞬戸惑いながらもキスして見せたりする人もいます。ノリがいいですね！大型スクリーンを使って、サプライズのプロポーズをするなんていうこともあります。

前回の駐在時も含め、MLBのアストロズの試合は何度も行っています。アストロズの選手がホームランを打った時に電車が汽笛を鳴らして動く



▲昨年対ジャス戦でムアは、大谷選手の特長を応援する声援として、谷選手に「スロースト」のサインを贈りました。

のが楽しみの一つです。また、試合の後半に流れる定番の歌をご存知でしょうか。他のMLBの試合でも歌われる“Take Me Out to the Ball Game”はもちろん、アストロズではもう一曲、“Deep In The Heart of Texas”が流れます。カントリー調の歌で、途中で何度か、手拍子を4回続けて入れるのですが、これをリズムに乗ってスムーズにできるようになり、かつ大きな声で歌えるようになると、一人前のヒューストニアンになった証拠。

地元のチームを応援する以外にも、日本選手が遠征でやってくる試合は楽しみが増します。この1年の間にも、バスケットボールの河村勇輝選手のNBAデビュー戦、MLBシカゴカブス鈴木誠也選手のホームラン、ロスのチームに所属するサッカーの元日本代表、吉田麻也選手の活躍や、なでしこジャパンの新監督の初陣の勝利などをヒューストンで目撃することができました。河村選手はずっとベンチで待

機しながらも、味方の選手がベンチに戻るたびに一番先に出迎え、試合中は大きな声で味方を鼓舞。試合終了数分前によくコートに立った姿に目頭が熱くなりしました。サッカーの吉田選手は、体を張ったディフェンスはもちろん、チームのキャプテンとして味方が取られたファールに堂々と抗議する姿が印象的でした。日本を離れて活躍する選手の皆さんから、たくさんの勇気ももらっています。

スポーツ観戦好きの私ですが、アメフトにはまだ馴染みがありません。試合の長さや複雑なルールに抵抗を感じてしまうのです。でも、アメフトなくして、アメリカでのスポーツは語れませんよね。アメフトにも熱い視線を注いでみたいと思います。

リレー式

ヒューストン日記 第251回 工藤 優子 さん

前回の駐在時も含め、MLBのアストロズの試合は何度も行っています。アストロズの選手がホームランを打った時に電車が汽笛を鳴らして動く

スポーツ観戦好きの私ですが、アメフトにはまだ馴染みがありません。試合の長さや複雑なルールに抵抗を感じてしまうのです。でも、アメフトなくして、アメリカでのスポーツは語れませんよね。アメフトにも熱い視線を注いでみたいと思います。



Back to School

第二弾開催！



日時：9月25日（木）10：00～12：00 場所：三水会センター会議

第二弾は、心理カウンセラーの小島理恵さんをお迎えして、学校生活をスタートしたお子さんの心のケアについてお話いただきます。

「ちょっと元気がない気がする…」 「学校に行きたくないと言われたらどうしよう？」 など、親として気になることを一緒に考えながら、新しい環境でがんばるお子さまの心をサポートするためのヒントが得られる貴重な機会です。ぜひお気軽にご参加ください。

お申込み・詳細は商工会ホームページにてご確認ください。



ピーカンキッズ



子ども向け日本語プログラム

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

お申込み及び詳細は商工会ホームページをご覧ください。

「よみかぜ」

10月14日（火）10：30～

「あそぼーかい」

9月19日（金）10：00～



Made in USA

いいもの紹介

日本へのお土産に良いかも？！

『epicurean』



2ヶ月ほど前、友人とランチをした後、ふらっと立ち寄ったお店で購入しました。

これまでまな板なんて大したこだわりもなく適当なものを使ってきましたが、epicureanのまな板は、「まな板なんて、これでいい」を変えてくれました。

「次買つな、epicurianがいつ!!」

おすすめ理由は

① 軽い・乾きが早い

洗って立てかけておけば10分。
軽いのもありがたい。

② 食洗機OK

耐熱温度は176度。
鍋敷がわりにもできます。

③ 抗菌性に優れ衛生的

今までのプラスチックのまな板は、使うたびにマイクロプラスチックが混ざると聞き、かといつて昔ながらの一枚板のは傷に細菌やカビが繁殖するのが心配でした。

epicureanのまな板は、天然木の合成繊維できているのでBPAフリー！。

④ Made in the USA

アメリカ ウィスコンシン州スペリオルで設計、製造されています。特殊素材は米国産で、100%アメリカで製造されているそうです。
USAブランドでも製造は他の国だったりするものも多い中、こちらは真正正銘「Made in the USA」です。

⑤ デザインもスタイリッシュ。

サイズやカラーも豊富。

最初は一般的なサイズを購入しましたが、すぐにサイズ違いで欲しくなり小サイズのMサイズを購入しました。お弁当のおかずやフルーツ、パンなどちょっと切りたい時、このサイズはとても便利です。デザインもスタイリッシュなので、チーズや生ハムをのせてカッティングボードとしても使えます。

液だれ防止の溝や、滑り止めがついているもの、カラーもいろいろあります。

今の時代、ネットでもどこからでも購入できますが、アメリカで購入するとお得感がありますし、珍しいデザインのものに出会えることもあります。ヒューストンですと、「Sula Table」「Williams Sonoma」「Crate&Barrel」など購入できます。

薄型で軽いので日本へのお土産リストにぜひ加えてみてくださいね。

(図書スタッフ)

令和6年度(2024-2025) 8月

商工会常任委員会 議事録

議事録日時： 2025年8月27日(水)13:00~13:50
会 場： United Way of Greater Houston CRC
出席者： 43名(うち名誉会員1名、常任委員37名、代理1名、オブザーバー3名、事務局長1名)
欠席者： 81名(うち会長委任41名、代理委任4名、無回答36名)

*会員消息

2025年8月15日現在の会員数は名誉会員11名、正個人会員944名、(正団体会員数:118社)、準会員55名、総会員数1010名。
議事録と会員消息の詳細は、商工会HPの「[会員専用ページ](#)」を参照。

Houston Walker

■ Sep. 19- Oct. 19

The Da Vinci Code@ ALLY THEATRE

全米では最も古い常駐劇団員を抱える劇場のひとつアリーシアターにて、大ヒット小説「ダ・ヴィンチ・コード」をもとにした演劇が上演されます。

■ Sep. 26 - Oct. 19

State Fair of Texas @ Fairgrounds, Dallas

恒例ダラスの55フィートの巨大なカウボーイBig Texが迎えてくれるState Fair of Texas。ロデオに牛などの家畜ショー、遊園地と家族で楽しめるイベントとなっており、期間中ステージで行われるコンサートも入場料に含まれています。

■ Oct. 2-5

CIRQUE DU SOLEIL OVO @ TOYOTA Center

シルクドソレイユによるステージ"OVO"。エコシステムに焦点を当てたこの演目では、色鮮やかな植物や昆虫の世界がバンド演奏と共に躍動します。

■ Oct. 3-5 & 10-12

Austin City Limits Music Festival @ Zilker Park

音楽の街オースティンでシティ・リミッツ・ミュージックフェスティバル (ACL) が開催されます。今年はサブリーナ・カーペンターやドージャ・キャットが登場します。

■ Oct. 9-12

International Quilt Festival@ George Brown Convention Center

世界から毎年4万人以上が訪れるというキルトフェスティバル。キルトコンテストや有名作家の作品など1200点もの展示が行われます。

■ Oct. 11&12

KOREAN FESTIVAL HOUSTON@ Discovery Green

ダウンタウンのディスカバリーグリーンに韓国祭りが登場。伝統的な民族舞踊からK-POPのステージ、キムチ早食い大会に韓国料理の販売のほか、扇子作りなどのクラフトや文化体験ができる無料イベントです。

■ Oct. 11- Nov.30 (週末開催)

Renaissance Festival@Todd Mission

ルネサンス調の衣装に身を包んだパフォーマーによるダンスショー、馬に乗った騎士の槍対決はまるでヨーロッパ中世にタイムスリップしたよう。海賊やゴーストなど、週末ごとにテーマが変わります。チケットは事前にオンラインでお得に入手しましょう。

■ Oct. 18&19

CAF WINGS OVER HOUSTON@ ELLINGTON AIRPORT

秋の空のもと飛行機が迫力のエアショーを繰り広げます。空軍サンダーバードやF16戦闘機、第二次世界大戦から空を飛ぶ貴重なB25などのデモンストレーション飛行のほか、真珠湾攻撃の再現もあります。

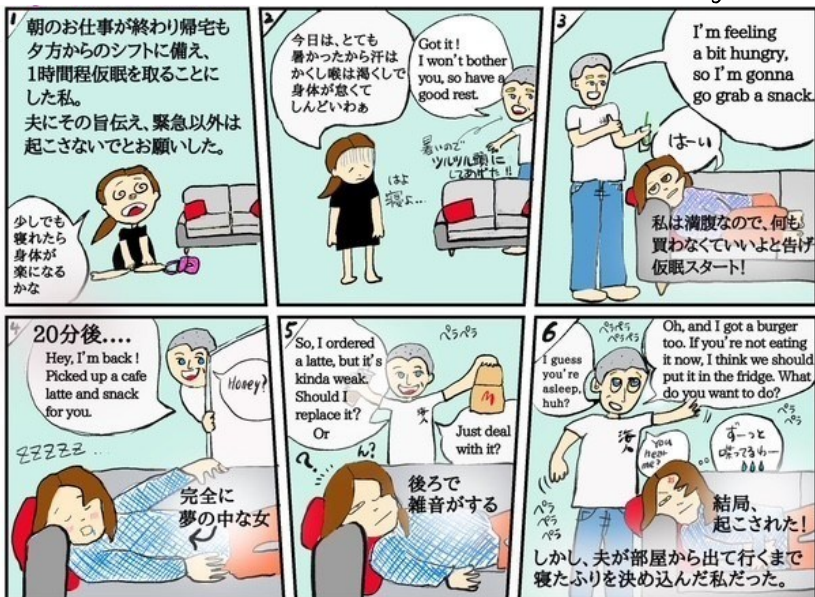
内容は記事執筆時点の情報に基づいています。変更になる場合もありますので、お出かけ前に

各自で最新の情報を主催者サイト等でご確認ください。(ファーガソンステガー-佐野に美)

ヒューストン知っとな物語

No.170

By Kumiko



免責事項：本紙掲載の情報について、できる限り正確な情報を提供するように努めておりますが、正確性や安全性を保証するものではありません。情報が古くなっていることもございます。掲載された内容によって生じた損害等の一切の責任を負いかねますのでご了承ください。また本誌に掲載したリンク先の第三者サイトについて、同サイトに掲載されている内容を確認しておりません。ご自身の責任でご利用ください。

編集後記

今月号の『ガルフストリーム』をご覧いただきありがとうございます。私がヒューストンに赴任してから、早いもので半年が経ちました。右も左も分からないまま編集委員長としてスタートしましたが、こうして9月号の編集後記を書くことになり、改めて身の引き締まる思いです。慣れない土地での挑戦に戸惑うこともありましたが、温かく迎えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

日々の業務を通じて感じるのは、エネルギー分野の変革が世界的な課題であると同時に、ここヒューストンでの企業活動がその未来を形づくっているという事実です。気候変動や新技術への対応、国際協力の在り方など、考えるべきテーマは尽きません。現地に身を置くことで、紙面や報告書では伝わりにくい「リアル」を肌で感じられることは、私にとって大きな財産になっています。

また、ヒューストンはエネルギー産業の中心地であると同時に、多様な文化が息づく街です。まだ手探りの部分も多いですが、これからは街の魅力も少しずつ発見し、仕事と生活の両面で楽しんでいきたいと思っています。

本誌は、商工会の活動を記録するだけでなく、ヒューストンの息づかいや国際的な変化の兆しを共有する場でもありたいと考えています。また、歴史ある本誌ですが、時代のニーズに合わせた進化を続けることも大切だと感じています。そのため、今号から紙面のレイアウト変更にも取り組みました。未熟な点もあるかと思いますが、ぜひ皆様からの率直なご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

次号も皆様にとって価値ある一冊となるよう努めてまいります。これからの『ガルフストリーム』も、どうぞよろしく願っています。

(編集委員長 伊藤 義治)

ガルフストリームは毎月15日発行です。

編集委員および投稿募集中！

問い合わせ先： sansuikai@jbahouston.org

ガルフストリームは、ホームページでも閲覧可能です。

<https://www.jbahoustongulfstream.com/>

発行：ヒューストン日本商工会

発行責任者：濱田 哲

編集委員長：伊藤義治

構成・編集：ガルフストリーム編集委員一同